

昨日までさびしかった所に、
突然あのピンクの花が開く。
こぼれるように咲き誇る桜。
そっ、またこの季節が巡ってきた。
絢爛なソメイヨシノ、妖艶なベニシダレ：
そして、年月を経ても命の輝きを失わないエドヒガン。
町の随所を彩る桜は多様な美しさを見せ、
見る人の心にそっと重なる。

「さまざまのこゝろ思い出す桜かな」
俳聖とうたわれた芭蕉は、自らの言葉にならぬ感慨を表現した。
さくら、サクラ、桜。

その瞬間、そのときの感情、人それぞれの桜がある。
第一章では町の桜の見どころと、その花に込めた思いを。
第二章では福智山の中腹に立ち続ける一本桜に秘められた物語を。
春の気配を感じるこの三月、桜前線の前にお届けしたい。
いま、あなたの心にある桜は、色あせてないだろうか。
そして、この春愛でる桜は、どんな風に映るだろうか。

(写真) 金田成竹 琴道そばの桜並木 / 題字 (彩雲書)

第一章 心に咲く花

桜

SAKURA

特集

